

特集

オモイデヒカル。

三芳町竹間沢。春は鮮やかな黄色の菜の花が地域を彩り
6月初旬にはこぶしの里にホタルが舞い、幻想的な光を放ち
秋にはコスモスが広がります。その光景の背景には
地域を愛する人たちの「想い」と「思い出」が深く関係していました。

人は、子どもを経て大人に成長するもの。鬼ごっこや缶蹴り……。日が暮れるまで夢中で遊んだ記憶。子どものころの故郷での思い出は、大人になっても、色あせることなく、ずっと脳裏に焼き付いているもの――。「あつー！いたよー」。竹間沢にある公園「こぶしの里」の脇を流れるこどもの川から、子どもたちの悲鳴にも似た声が聞こえます。その手には、逃れようと必死に抵抗をするザリガニがいました。「僕たち、よくここでザリガニ釣りをしてるんだ」と話す地元小学6年生5人を、目を細めて見つめる人物がいました。竹間沢はたる育成会会長の古寺貞之さんです。

「私があの子たちくらいの時、このこぶしの里も、今は工業地帯となった竹間沢東地区も田んぼだったんです。初夏になるとホタルが飛び、その光景が忘れられないんです。だから……」と言いかけた古寺さんに、先の子どもたちが「ホタルのおじちゃんだ。こんにちは！」と大きな声であいさつをしました。

地域の繋がりが希薄と言われている昨今ですが、「一軒一軒の家をこどもも神輿で練り歩く伝統ある行事を行うなど、竹間沢という地域は人の繋がりが昔から、強いと感じます。子どもたちも、こうしてあいさつをしっかりとしますし」と胸を張って語る古寺さん。

想いと思い出物語

なぜ古寺さんのことを子どもたちは知っていたのでしょうか。その理由は地域を愛する人たちの「想い」と「思い出」から始まった、素敵な物語がありました。

今月の特集は「オモイデヒカル」。こぶしの里になぜホタルが舞うのか、その秘密に迫ります。■



ホタル観賞の時期、最も多い日には700人が訪れるこぶしの里。
住所：埼玉県三芳町竹間沢1081番地（みずほ台駅徒歩30分）